

釜山からモスクワまで 所要日数を15日に短縮

FESCOが6月から本格化

ロシアの大手運輸グループ、FESCO Transpotation Groupは21日、韓国の釜山からロシアのモスクワまでの所要日数が従来の21～23日から15日に短縮化したと発表した。4月にサムスン家電製品を40HCに詰め、釜山からウラジオストクまで海上輸送したあと、シベリア横断鉄道（TSR）に積み替えモスクワまで試験輸送したもので、6月から本格的なサービスを開始する。

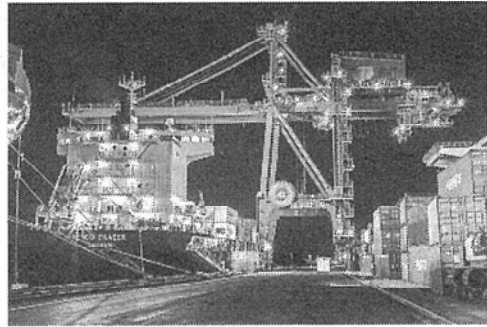
所要日数は釜山からウラジオストクまで2日、その後港と鉄道の接続を3日から2日に改善し、快速鉄道でウラジオストクからモスクワまで10-11日へ5日短縮し、ウラジオストク商業港での通関手続きも数時間に

迅速化した。

FESCOの極東ロシア経由によるアジア太平洋地域からロシア向け快速サービスは今年1月から上海→モスクワを20日間で輸送するサービスを開始、これまで同ルートを利用した貨物の40%が20日を下回り、30%は通関手続きより21～25日となっている。

続く4月に

は日本からモスクワまで積み港により20～27日、ロシアにもっとも近い富山新港からはわずか15日で輸送する「はやみち（早道）」と呼ぶ快速サービスを開発している。



出典：
株式会社 オーシャンコマース刊 “SHIPPING GUIDE”
2018年5月23日（水）号より